

新型コロナウイルスに対する 学校でのメンタルヘルス支援パッケージ

(2020 年 3 月 9 日初版、3 月 11 日改定第 8 版)

監修：日本児童青年精神科・診療所連絡協議会 <https://jascap.info/>
(Japanese Society for Child and Adolescent Psychiatry Clinic : JaSCAP - C)

連絡先：日本児童青年精神科・診療所 連絡協議会事務局
(医療法人社団 至空会 メンタルクリニック・ダダ内)
〒434-0043：浜松市浜北区中条 1844 E-mail : jascap_cjimu@yahoo.co.jp

はじめに

新型コロナウイルスのような大規模の感染症が流行している場合には、身体症状への対応や感染防止対策に注意が向きがちです。また、感染防止のために、登校することや友人と遊ぶことが制限され、メディアから不安を強くするような情報が大量に流されます。このような場合には、実際に感染した子どもはもちろんですが、それ以外の子どもにも大きなストレスがかかります。そのため、ストレスに関連した様々な症状を起こす可能性があります。多くの子どもたちは、周囲の大人の適切な対応で回復します。しかし、一部に専門的なメンタルヘルス対応が必要な子どもが出てくる可能性があります。

日本児童青年精神科・診療所連絡協議会（JaSCAP - C）では、別紙「資料」を参考に「新型コロナウイルスに対する学校でのメンタルヘルス支援パッケージ」を作成しました。現時点では感染防止が最優先されますが、学校の先生や保護者の方が、子どもたちのメンタルヘルス対応をしていただく場合が出てくる可能性があります。その際に、このパッケージを参考にしていただけると幸いです。

なお、このパッケージの利用は、利用される方の責任において行って下さい。利用される方の責任において、個々の学校の事情に合わせて変更される場合は、変更を加えていただけて結構です。感染防止対策においては、資料リスト（本文最後に掲載）を参考にしていますが、その点に関して問題にお気づきの場合や内容にご質問のある場合は、JaSCAP-C までご連絡ください。

別紙

- | | | |
|----|-----------|--------|
| 1) | 教職員のみなさまへ | P1 |
| 2) | 保護者のみなさまへ | P2~P5 |
| 3) | 子どもたちへ | P6~P10 |
| 4) | 資料リスト | P11 |

教職員のみなさまへ

新型コロナウイルスについて、連日、メディアで大量の情報が流されています。また、感染拡大防止のため全校が休校になり、子どもたちの行動が制限されています。このような場合には、身体症状や感染拡大に大人の注意が向きがちですが、子どもたちには多大なストレスが加わります。メンタルヘルス対応の窓口を設置の上、以下のことにご留意ください。なお、睡眠や食欲に長期間影響が出ている場合や行動上の問題が大きい場合などは、専門的な対応が必要になる場合があります。そのような場合は、養護教諭や校医と相談の上、子どものこころの専門医がいる医療機関などの専門機関と連携してください。また、保護者の中には、未診断の知的障害や発達障害、いわゆる境界域（グレーゾーン）の方がいるかもしれません。すべてを完璧に実行するのではなく実状に応じて柔軟にご対応ください。

メンタルヘルス対応の窓口の設置例

1. 校内では保健室の養護教諭、スクールカウンセラー
2. 校医、連携可能な医療機関

保護者に伝えること（別紙「保護者のみなさまへ」参照）

1. 保護者と子どもが、よい体調を維持できるように努めること
2. 保護者が正しい情報を得ることと、それを子どもにわかりやすく説明すること
3. 保護者と子どもが、不安をあおりがちなメディアに接する時間を減らすこと
4. 家族や親せき、友人などの親しい人と話す時間を持ち、孤立しないこと
5. 保護者と子どものストレスに伴う心理的な反応について気をつけること
6. 必要なときに専門機関と相談すること
7. 障害をもつ子どもへの配慮

子どもに伝えること（別紙「子どもたちへ」参照）

1. 現在の状況に関する説明および感染拡大防止のために気をつけること
2. 学校が休みの間の家での過ごし方
 - ① 規則正しい生活と適度な運動やリラックスできる時間をとること
 - ② 感染拡大防止に気を付けること
 - ③ 不安をあおりがちなメディアに接する時間を減らすこと。
 - ④ 家族や親せき、友人などの親しい人と話す時間を持ち、孤立しないこと
 - ⑤ ストレスに伴う心理的な反応について気をつけること。
3. 感染に関するするいじめの防止

保護者のみなさまへ

新型コロナウイルスについて、連日、メディアで、大量の情報が流されています。また、感染拡大防止のため全校が休校になっています。このような状況では、身体症状や感染拡大に大人の注意が向きがちですが、子どもたちには多大なストレスが加わります。保護者の方には急な休校に伴い多大なご負担があると思いますが、保護者の方ご自身ならびに子どもへのメンタルヘルス対応について説明します。

◆ 保護者の方ご自身のメンタルヘルス対応としては、以下のことにご留意ください。

① 保護者ご自身が、よい体調を維持できるように努めましょう。

保護者ご自身の心身の安定が第一です。できるだけ規則正しい生活をし、睡眠を十分にとり、食事でも三食バランスよく食べ、可能な範囲の運動をこころがけましょう。子どもは、周りの大人の反応をみて、状況を判断します。周りの大人が落ち着かないと子どもも落ち着きませんが、周りの大人が落ち着いていれば子どもも落ち着きます。



② 正しい情報を公的なホームページなどで得るようにしましょう。

正しい知識があれば、適切に対応でき、過度な不安を防ぐことができます。

③ 不安をあおりがちなメディアに接する時間を減らし、心配や焦りを減らしましょう。

そのようなメディアに接する時間があれば、家族との団らんや休息を持ちましょう。



④ 家族や親せき、友人などの親しい人と話す時間を持ち、孤立しないようにしましょう。

人に話を聞いてもらうことで、心配や焦りが解消することがあります。



⑤ 過去に大きなストレスを感じながら乗り越えた経験を思い出しましょう。

そのような経験は、過度な心配や焦りを防ぎ、今回の状況を乗り越えるのに役立つ可能性があります。また、周囲の人とお互いにうまくいっている取組があれば、褒めあいましょう。

今回の状況を乗り越えることは、将来役に立つ可能性があります。



⑥ 気持ちを落ち着けるために、アルコールやタバコ、あるいは病院で処方された薬以外の薬剤に過度に頼らないようにしましょう。

我慢できないときは、カウンセラーや心療内科、精神科など専門機関に相談しましょう。

⑦ ご自身の心理的な状態を把握するように気をつけましょう。

このような状況で、ストレスを感じ、不安や怒り、時に気分が落ち込むことは自然なことです。ストレスで生じるメンタルヘルスに関連する反応には、気持ちの変化や体調の変化など様々なものがあり、日常生活に支障がでる場合もあります。このような反応が普段よりも強く出た場合は、休息をとり、必要に応じて専門機関に相談しましょう。もともと専門機関にかかっている方は、症状が悪くなる前にこまめに相談しましょう。

⑧ 必要な時に、相談できる専門機関をあらかじめ調べておきましょう。

わからない場合は、各都道府県や政令指定都市の精神保健福祉センターのホームページを参考にしてください。



◆ 次に子どもたちへのメンタルヘルス対応として、以下のことをお願いいたします。

① 子どもが、よい体調を維持できるように努めましょう。

規則正しい生活を心がけ、睡眠を十分にとり、食事も三食バランスよく食べ、可能であれば、外での運動をさせるなどをこころがけましょう。(散歩や公園で走る、縄跳びをする等で感染するリスクは低いと考えられます。)

② ウイルスやその感染防止について正しい知識を、子どもにわかりやすく伝えましょう。

何が起きているか事実を伝え、今どうなっているか説明し、感染リスクを減らすためにどうすればいいか、子どもの理解力に応じて、わかるように教えましょう。

③ 不安をあおりがちなメディアの情報に、子どもが接する機会を減らしましょう。



④ 家族や親せき、友人などの親しい人と話す時間をもち孤立しないようにしましょう。

コンピューターゲームや動画の視聴の時間を増やさず、家族と話をする、カードゲーム、ボードゲーム、折り紙や工作などをして過ごす時間を作りましょう。できるだけ、親や家族がそばにるようにしましょう。入院などで離れる場合には電話などで定期的に連絡できるような方法を確認してください。直接会えない友人とはメールや電話で連絡を取れるようにしてあげましょう。

⑤ 子どもたちのストレスに伴う心理的な反応に気をつけましょう。

このような状況では子どもたちに、以下のようなストレスに伴う心理的な反応が出る場合があります。

甘えたくなる・心配になる・元気が出ない・悲しくなる・おねしょをしてしまう
いらいらする・怒りっぽくなる・喧嘩が増える

子どもは大人の愛情と目を向けられることを必要とします。今まで以上に時間をかけ、接してください。子どもの訴えを聞いて、やさしく話しかけ、安心させてください。可能なら、安全な環境で遊びやリラクセスできる機会を作ってください。多くの場合、このような心理的な反応は、時間とともに改善しますが、睡眠や食欲の問題が長期間続く、行動上の問題が顕著であるなどのような場合には、保健室の先生やスクールカウンセラーなどに相談するようにしてください。

もしこのような反応が見られたら、やさしく話を聞いてみて下さい。



喧嘩、いらいら



元気がない



おねしょやかんしゃく等、
いつもと様子の異なる行動

⑥ 障害をもつ子どもは、障害に特有の配慮が必要になります。専門機関にかかっている方は、こまめに相談するようにしましょう。

特に、発達障害などの特性をお持ちのお子様は、急な状況の変化に適切に対応できない場合があります。本人の理解力に応じて説明は時間をかけてわかりやすく行い、できれば、表やイラストなどの視覚的な説明方法も取り入れましょう。また、できるだけ安心できるように、先の見通しがもてるようにしてあげましょう。また、感覚過敏をもつ方も多いので、自分のペースで静かに過ごせる場所や時間を作りましょう。このような取組は、発達障害を持たないお子さまにも有効です。

子どもたちへ

新型コロナウイルスについて

今回たくさんの人に感染（ウイルスが体内に入ること）が広がっている新型コロナウイルスは新型のウイルスです。新型のウイルスには、免疫（ウイルスをやっつける力）を持っている人が少ないので、多くの人が感染しやすいです。

子どもたちが新型コロナウイルスに感染しても、鼻水や咳のような風邪の症状が軽くなすんでなおっていることが多いようです。ところが、高齢者（おじいさん、おばあさん）やもともと何か病気をもっている人などは、このウイルスに感染すると肺炎という病気になって胸が苦しくなったり息がしにくくなったりして、入院しないといけなくなることがあり、中には亡くなる人もいます。感染した人の鼻水や咳やくしゃみの時に出るしぶきにウイルスがはいついて、それが直接かかり、あるいは、ドアノブなどについているのを他の人が手で触って、その手で口や鼻に触ることで、感染が広がっていくことが多いようです。

感染のしくみと症状



ウイルスをもった人と
接触（会話など）をする



ウイルスのついた
ドアノブなどに触る



主な症状



咳・くしゃみ



鼻水



発熱



体がだるい



肺炎などの症状で
入院が必要な場合も

そこで、^{しんがた}新型コロナウイルスの^{かんせん}感染が^{ひろ}広がっていくのを防ぐために、あなたたちにも^{きょうりよく}協力してもらいたいです。だから、^{ねつ}熱や^{せき}咳など^{かぜ}風邪の^{しょうじょう}症状がある人は、^{ひと}自宅で^{じたく}過ごし^{ほか}他の人にうつさないようにしましょう。^{かぜ}風邪の^{しょうじょう}症状のある人は、^{ひと}人と^あ会うときはマスクをしましょう^注。また、^{げんき}元気な人もウイルスがうつらないように、^{しょくじ}食事の^{まえ}前、^{あと}トイレの後、^{そと}外から^{かえ}帰ってきたとき、^{はな}鼻を^{あと}かんだ後などに、^{てあら}手洗いや^{てゆび}手指の^{しょうどく}消毒をしましょう。そして、^{かぜとお}風通しの^よ良くない^{ばしょ}場所で^{なが}長い^{じかん}時間^{ひと}たくさん^{ひと}の人がいるようなところは^い行かないように^{たす}しましょう。あなたたちが^{きょうりよく}協力することで、^{たす}助かる^{ひと}人がたくさんいます。あなたたちの^{とりくみ}取組は、^{しょうらい}将来^{やく}必ず^{やく}役にたちます。

ウイルスを^{よぼう}予防する^{ほうほう}方法



^{てあら}こまめな手洗い・^{しょうどく}消毒



^{こんざつ}混雑するところにはなるべく^い行かない

がっこう やす あいだ いえ す がた 学校が休みの間の家で過ごし方

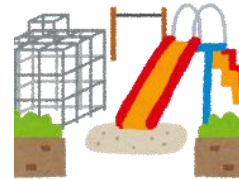
がっこう やす なが ともだち あそ いえ で
学校の休みが長くなって、お友達と遊ぶことや家から出ることができないと気持ちがしんどくなる、イライラすることがあります。そうならないために、以下のことに気をつけましょう。

① 規則正しい生活をしましょう。

じゅうぶん すいみん しょくじ まいにち きん 3食 バランスよく食べましょう。

② 適度の運動やリラックスできる時間を取りましょう。

こうえん で走ることや、縄跳び等をして大丈夫です。遊具を触る時は遊ぶ前後で手洗いや手指消毒をしましょう。また、鼻や口などはできるだけ触らないようにしましょう。



③ 感染が広がらないようにしましょう。

かぜしょうじょう (せき、鼻水、発熱) のある人は出かけず家で過ごしましょう。
げんき な人もウイルスがうつらないように気をつけましょう

④ 新型コロナウイルスに関するテレビやネットをみて、気持ちがしんどくなるなら、あまり見ないようにしましょう。

NHK for School 新しいコロナウイルス 気をつけること(9)などは役に立つと思います。



⑤ 家族や友達と話す時間をもちましょう。

コンピューターゲームやパソコン、動画を見る時間を増やさないようにしましょう。家族でカードゲームやボードゲーム、お話を^{はなし}して過^すごしましょう。会^あえない友人^{ゆうじん}とは、メールや電話^{でんわ}などで話^{はな}すようにしましょう。気^き持ちがしんどいときは、一^{ひと}人でいるよりも、信^{しん}頼^{らい}できる人^{ひと}と話^{はな}すと楽^{らく}になることがあります。



⑥ 気もちがしんどくなったら、家族や学校の先生などに相談^{そうだん}してみましよう。

気もちがしんどくなると、次^{つぎ}のような症^{しやう}状^{じやう}は出^でることがあるかもしれませんが、今^{こん}回^{かい}のような状^{じやう}況^{きやう}では不^ふ思^し議^ぎなこ^ことではありませ^せんし、状^{じやう}況^{きやう}が落^おち着^おけばおさ^おま^まるこ^ことが^お多^おい^いです。

甘^{あま}えたくなる・心^{しん}配^{ぱい}になる・元^{げん}氣^きが出^でない・悲^{かな}しくなる・おねしょを
してしま^{しま}う・イライラする・怒^{おこ}りっぽくなる・兄^{きやう}弟^{だい}喧^{けん}嘩^かが増^あえる
長^{なが}く続^{つづ}く時^{とき}や心^{しん}配^{ぱい}な時^{とき}、困^{こま}った時^{とき}は、家^か族^{ぞく}や学^{がく}校^{こう}の先^{せん}生^{せい}など、信^{しん}頼^{らい}できる
大^お人^とに相^{そう}談^{だん}してみましよう。相^{そう}談^{だん}はメー^めー^いルや電^{でん}話^わでもでき^{でき}ます。

いつもと違^{ちが}うかも？と思^{おも}う時^{とき}は相^{そう}談^{だん}してみましよう



⑦ いじめをしないようにしましょう。

たまたま、^{しんがた}新型コロナウイルスに^{かんせん}感染した^{ひと}人やその^{かぞく}家族あるいは^{みぢかな}身近な^{ひと}人、^{かんせん}感染した^{ひと}人の^{ちりよう}治療や^{よぼう}予防をがんばっている^{びやういん}病院や^{ほけんじょ}保健所の^{ひと}人やその^{かぞく}家族などに、^{きざ}傷つけるようなことを^い言ったりしたりするのはやめましょう。たとえば、「ウイルスにかかっている」「ウイルスがうつる」などと言っ
てからかう、^{もの}のけ者にするなどです。いじめはあってはならないこと
です。もし、そのような^{ばめん}場面を見かけたら^{かぞく}家族や^{がっこう}学校の^{せんせい}先生など、^{しんらい}信頼でき
る^{おとな}大人に^{そうだん}相談してください。



(資料リスト) 参考としたホームページ

▶新型コロナウイルス感染症に関する一般的な情報

厚生労働省

新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルスに関する Q&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

一般社団法人 日本環境感染学会

医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第2版

http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide2.pdf

東北医科薬科大学WE B ページ

<http://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp/info/information/2326/>

NHK for School 新しいコロナウイルス 気をつけること (9)

<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/k10012315221000/k10012315221000.html>

▶メンタルヘルス関係

世界保健機関 (WHO) のポスター

大人用

https://www.who.int/docs/default-source/coronaviruse/coping-with-stress.pdf?sfvrsn=9845bc3a_2

子ども用

https://www.who.int/docs/default-source/coronaviruse/helping-children-cope-with-stress-print.pdf?sfvrsn=f3a063ff_2

日本精神神経学会

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1111/pcn.12988>

注) 健康な人のマスクの着用の効果については議論があるところですが、無症状のウイルス保持者がいるという情報を加味すると、基本的には人と近距離で会うときは、マスクをする意味があると考えられます。